

## U3級<東プロ用語>

### <東プロにおけるU3級区分>

U3級とは主に本家東方において **Stage1-3内のBoss** や **所属派閥の従者等** が分類される階級。初期においては『**軽量級**』という呼び方もあったが **極めて限定的な問題** からU3級と称されるようになった。なお、正式な**U3級**の設置は、第10回大会の**LU3W**初代王者決定戦より。

**無差別級**よりは小柄な体格や主にパワーにおいてやや劣る肉弾幕技主体ではあるがそれを超越するスピーディかつテクニカルな試合展開を行える選手も多く、東プロでは脇役としてではなく、十二分にメインとして活躍できる階級となっておりプロレスにつきものの体格差を当人のセンスや努力次第で乗り越えられる事、そして何よりエンターテインメントスポーツとしてのプロレスの良い所のみを濃縮実演する試合展開に、ファンからの評価が高い。単純に所属ステージだけでなく、総合成績から判断されての登録も行われる。

というのが公式登録上の話。所属選手は**選手紹介:U3**で。

元々は『**軽量級**』という表記ではあったが極一部の選手の**身体的特徴**や**戦績の問題**により概念が変更となり、今日の形となった。また**一部選手**のように**無差別級**参戦可能か否かの実力の見極めを自身で行った上でU3級に籍を置いている場合もある。

U3級は創設初期からの強豪たちと新たに飛躍してきた新鋭が入り乱れ、非常に勢いのある階級となっている。これは無差別級に見られる従者クラスと主人クラスのような地力の差がU3級内ではさほど見られないことによるものと考えられる。もともとU3級は無差別級に比べ万能型が少なく、多かれ少なかれ何かに特化した選手がほとんどの為、多少の地力の差よりも自分にファイトスタイルに合った試合運びと**ミスティア**の「焼鳥ブラッシュ」や**紅美鈴**の「彩雨」のような絶対的なフィニッシュ・ホールドを確立できるの方が重要で、**LU3W**の初代王者である**橙**は旗揚げ初期からの経験と「飛翔毘沙門天」という必殺技で長期政権を担った。逆説的にとらえると、そのような条件がそろえばどの選手も一気にU3級のトップ戦線に躍り出ることが可能で、たった一つの勝利がその選手を化けさせることもしばしばある（最も顕著なのは**プリズムリバー三姉妹**で、負けの代名詞のようであった彼女たちはそれぞれある1勝を境にU3級のベルトを獲得するほどの選手に成長した）。

本来U3級を恥じる事はない。

U3級は**無差別級**のマイナー・リーグなどではなく、むしろ**無差別級**には不可能な階級超えタイトルの獲得（**無差別級**の選手が**U3級**のタイトルに挑戦することは禁止されているため）や王座統一などの権利がある（当然、両方のタイトルを持っていない限り統一の権利はないため）という最大の特徴があり、さらに、本家東方において超格上と設定されている**無差別級**選手を倒したという実績はその後長く語られる名声となることから、ファンの間でも早いうちから注目されている階級である。

### <U3超級>

無論、正式な階級ではないが、無差別級の選手とも対等に渡り合うU3級のトップレベルの選手について、ファンの間ではU3級をもはや超えているとして、U3超級、と呼ばれることがある。無論、ファンの間で非公式に呼ばれているものであるが故に、誰がそこに該当するかについては

議論百出するところであり、ここでもあえて選手の名前は挙げず、ただそう呼ばれることがある、と記述するにとどめる。

## <無差別級との壁>

上述の通り、トップクラスともなれば力量差はかなり縮小するとはいえ、やはり無差別級との壁には厚いものがあり、現在に至るまでシングルで無差別級から星を上げた（いわゆる階級越えを達成した）のは、U3級が成立してからはアリス（鈴仙から・第27回大会）、ミスティア（妖夢から・第22回大会）のわずかに2人。（かつ、その相手はなぜか共通して5ボスである）

U3級成立以前、東プロ旗揚げまでさかのぼっても美鈴（幽々子から・第4回大会）を加えてのわずかに3人だけである。もっともこの問題に関しては、そもそも無差別級とU3級との間でシングルマッチが組まれること自体がほとんどないことを考慮すべきである。

もう少しきつい見方をすると、U3超級という表現さえ存在する今日では、無差別級とU3級との間でシングルマッチを安易に組めないという事情もある。

というのも、第31回大会において取り下げたものの美鈴はLSW挑戦を目指していたことを告白した（また放送席やファンもその挑戦を期待していた）ことや、レティには必ず無差別級でも強者が当てられる（彼女の過去の無差別級対決の相手は、いずれも東プロ十選のメンバーである）ことは、U3級でもトップレベルの選手は無差別級の強豪ともやりあえると本部側も認めているということで、それはとりもなおさず、中堅以下の無差別級の選手をぶつけることが難しくなったことも意味している。

実際ミスティアと妖夢のシングルマッチはどう見ても妖夢への救済処置であったが結局無差別級越えを献上してしまった。

そもそも無差別級では厳しいと考えられていた3面以下のボスに活躍をと作られたU3級が、逆に無差別級を脅かすということは、期待されると同時におおきな皮肉で、あまりに階級越えが存在すると「無差別級（笑）」とファンに揶揄されてしまうという、言わば無差別級そのものの存在意義さえもはらんでおり、

このように、階級の壁とその境界は本部やファン、何よりも各階級の選手たちの思惑が複雑に絡み合っているというのが現状である。

## <現実のプロレス界における近似階級の扱い>

実際のプロレスではクルーザー級やジュニア級と呼ばれる軽量級区分、ヘビー級、東プロでの無差別級と比べ、投技極そして空中殺法の鋭さが要点となる。

実際のプロレス業界でもなかなかメインになれない事も多い中

その空気に対する下克上を、そして体格で劣っていても同じリングの上なら関係ない、容赦されないのならば容赦なく相手を捻じ伏せるまで、という姿勢を貫きヘビー級ベルトを奪っていく選手もいる。（ジュニアヘビー級の選手同士で、ヘビー級のタイトル戦が行われた例もある）

ただのイベントーだけでなくプロレスそのものの意味を高めてくれる階級でもある。

[このページを編集](#)